

祝・四季が丘 20年

⊕ 広報 No.34 ⊕
四季が丘

四季が丘地区コミュニティづくり協議会広報部 発行
〒738-0036 広島県廿日市市四季が丘5丁目13番地の3
☒sikicomm@do9.enjoy.ne.jp http://ww6.enjoy.ne.jp/~sikicomm/

「四季が丘 20年の総括及び夏祭り篇」に続いて、今号 No.34 のテーマは「四季が丘 20年の歩み～個別テーマ編～」です。夏祭りと並ぶコミュニティのビッグイベント「とんど」をはじめ、四季が丘消防団、自主防災組織、ポポロの森野外コンサート（略してポポコン）等にスポットを当ててみました。寿会様からも高齢者の社会貢献についての貴重なご投稿をいただいています。

地域に根付いたこれらのイベント、また、これからいっそう拡充・浸透されていくことが期待される各種組織作り等に向けて、20周年を機に振り返ってみると同時に、将来に向けての思いを馳せられてみてはいかがでしょうか？

なお、記事編集にあたり、ご多忙にもかかわらず、快く原稿執筆いただきました関係各位の皆様方に心より厚く御礼申し上げます。

20年を迎えた四季が丘

昭和63年4月には世帯数32、人口110に過ぎなかった四季が丘。現在では廿日市市全体の世帯数の約4%、総人口の約6%を占めるビッグ団地へと成長いたしました。

(町名)	(世帯数)	(人口)
四季が丘1丁目	133	434
四季が丘2丁目	65	208
四季が丘3丁目	199	702
四季が丘4丁目	256	847
四季が丘5丁目	229	708
四季が丘6丁目	167	534
四季が丘7丁目	185	563
四季が丘8丁目	227	810
四季が丘9丁目	196	610
四季が丘10丁目	113	352
四季が丘11丁目	176	540
四季が丘上	157	549
合計	2,103	6,857

(※平成19年10月1日現在)

●四季が丘団地の世代構成

10代未満	10%	10代	18%
20代	14%	30代	10%
40代	18%	50代	19%
60代	5%	70代	4%
80代以上	2%		

☐家族構成年齢の一番若いのは「四季が丘上」



ポポロ公園から四季が丘小学校を望む



目次

—特集— 四季が丘 20年の歩み～個別テーマ編～

- 四季が丘のとんど
- 四季が丘の消防団
- 四季が丘自主防災のあゆみ
- 地域防災講演会実施報告
- ポポロの森野外コンサート
- 高齢者の社会貢献
- ペタンク大会結果報告

四季が丘のどんど

四季が丘地区コミュニティづくり協議会
事務局長 田中 一成

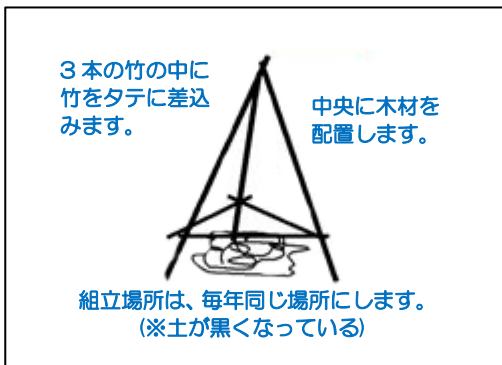
毎年、1月の第二日曜日に四季が丘地区では「どんど」を開催しています。

この「どんど」は、小正月の火祭り行事で全国に広く見られる行事ですが、地方により呼び方が異なるようです。門松や正月飾りなどによって出迎えた歳神を、それらを焼くことで、炎とともに見送る意味があるようです。書初めを燃やして、その燃え殻が天高く上れば、字が上達するとも言われています。

以前、群馬県出身の奥様が「だるま」を会場に持参されましたが、地域によって燃やすものが違っていたり、燃やしてはいけないものもあるようです。また、「どんど」という言葉を「爆竹」と表記した文献もあるようで、青竹の爆発音から発祥したのではないかととも言われています。

四季が丘での始まりは、平成6年（平成5年度）まで遡ります。当時の役員の方に聞きますと、6丁目町内会長の川口さんの発案とのことです。

その後、コミュニティ事業の「ミニどんど」として定着し、今日に至っています。当時の亀谷会長、奥村・上羽副会長、福田事務局長、会計中村さんを中心に始めました。私が四季が丘のどんどに関わり始めたのは、平成9年度からです。



とんどの竹の組み方も地域でいろいろな形があるようです。現在の四季が丘のものは、中心にまず火種となる木材（間伐材など）を置き、3本の竹を三角錐状に配置します。このあと、大人の腰高位置（約1.0m）に水平の竹を組みます。また、この3本の竹の柱は、自由に配置できるように竹に穴を設けて、番線を緩め、絞り、固定します。昔であれば、山に自生する「つる」を利用することで、燃えにくく、最後に灰になるように工夫していたのですが、ここでは、番線ですっかり固定しています。これは、燃え上がった炎で、組み立てた竹が倒壊し、事故のないようにする目的もあります。

使用している竹は、畑口の向井さんの山から、4t車3台分いただき、町内のお手伝い皆さんの協力で運び出し、使用しています。火種の材料は、2t車に半分程度の松の枝などを入れて使っています。松は油分が

多く火力があるため、短時間に竹を燃やすのに最適です。最初は、火種になる材料に、建築中の住宅廃材を貰い受け使用していましたが、平成9年には、住宅建築がほぼ終了し、建築廃材がなくなり、平成10年度から宮内の松浦さんの山からいただいております。



とんどの会場では、毎年、餅つきとビンゴを開催しています。

餅つきは、コミュニティの生活文化部・福祉部の協力で、ビンゴは、青少年部の協力で開催しております。年々、子供の人数が減少しておりますが、ビンゴカードはそれでも500枚出ています。また、餅米は、ここ数年24kg使用しています。着火は、冬の朝ということもあり、午前10時と決めています。



こうして毎年、多くの皆様に足を運んでいただき、盛大に開催できています。

ただ、昨今は、ダイオキシン問題が取り上げられ、とんどにも少なからず影響を与えています。燃え殻を処分するにも費用がかかるようになりました。（・・・と、言いつつも地域の皆さんの無病息災、厄除け祈願のつもりで開催しています。）

最後に、こうした今日のコミュニティ事業を維持できたのも、コミュニティ創設時の役員に加え、平成10年から役員に参加いただいた大島・狭間副会長、会計の宮本さん、書記の小田さん、会計監査の西奥さんのおかげと、紙面をお借りし、お礼申し上げます。また、四季が丘以外の方のお力もあり、こうして開催できているをご承知いただけると幸いです。

ただ、事務局という立場で「とんど」を振り返ると、「材料全てを地域外から持ち込む」こうした「祭事」が地域に根付き、いつまでも続けられるには、地域の皆様の支援無くしては到底成り立たないことだけは、ご理解いただきたいと思います。とにかく地域に支えられ「とんど」を15年間続けられたことを思えば、皆様に感謝、感謝・・・・・・・・・・。



🔥 四季が丘の消防団

◆ 廿日市市消防団四季が丘班の歩み

四季が丘団地の入居開始から7年後の平成7年（1995年）、団地世帯数は1,400世帯を超えるまでになっていました。廿日市市役所は、消防組織法の遵守から、人口の増える四季が丘地区に消防団設立の計画を立て、平成7年度中の設立に向けて、現在の場所（四季が丘5丁目、四季が丘公民館隣地）に消防団車庫の建設を着手しました。

消防団設立までは、四季が丘地区の防災に関して、コミュニティづくり協議会の「防火防犯部」が担当し、活動されていましたが、当時の同協議会会長であった亀谷氏の呼びかけで、各町内会から1名ずつの団員を出して消防団を編成することとなりました。



消防団車庫

編成は、当時廿日市市内の他地区ですでに消防団員として活動されていた3名（朝原勝利、岡崎忠美、松田久の3氏）を新設の四季が丘消防団に呼び戻し、朝原班長の下で、新人団員の指導と教育を担当していただきました。そして平成7年11月7日、新築の消防団車庫前で廿日市市消防団第3分団第2部2班（通称 **四季が丘班**）の結成式が行われ、四季が丘団地に念願の消防団が誕生することになったのです。



消防出初式



実戦応急操法大会



水防訓練

当初は朝原班長他8名でスタートした消防団ですが、現在までに団員の入退団を繰り返し、12年後の平成19年度も松田班長他8名で活動しています。なお、結成当時の2名（朝原、岡崎の両氏）は、現在は昇進して、消防団本部の広島県指導員と第3分団副分団長として活躍されています。

◆ 廿日市市消防団四季が丘班の活動

(1) 教育・訓練

消防団は消防署との合同行事も含めて年間19回出動しています。その他に地域への協力活動として、四季が丘班独自で消防車による夜間防火パトロールを年間11回、自主防災会訓練、四季が丘夏まつりなどへの協力を行っています。

主な行事：

廿日市市消防出初式、市内年末特別警戒、実戦応急操法大会、建物火災訓練、水防訓練、林野火災訓練ほか



(2) 緊急出動

建物火災、山林火災、台風災害、地震災害などに出勤して来ましたが、中でも家納喜（やなぎ）酒造建物火災や台風19号、芸予地震などの出動は、危険と隣り合わせの出動でした。四季が丘地区では、団地内の建物火災、小学校裏山の山林火災、ポポロ公園内火災、台風、地震など、消火活動や防災活動に出動しました。

(3) 今後の活動予定

① 消防団員の補充

現在四季が丘班は団員を募集しています。

平成7年の結成以来、団員の平均年齢は上昇するばかりで、団員数も必要人員に3名ほど不足しています。

四季が丘地区で消防団活動に協力していただける方の応募をお待ちします。

② 自主防災会への協力継続

四季が丘地区で自主防災会が誕生し、今ヨチヨチ歩きを始めました。

地区住民が6,850人を超え、人口こそ増えましたが、大規模災害発生時には自主防災会の活動が必要不可欠です。

我々消防団員も各町内の自主防災会が早く立ち立ちするべく協力していきます。

以上の2項については今後の重点項目として活動を継続していきますので、ご理解とご協力をお願いします。

（廿日市市消防団四季が丘班 小島 廣次）



四季が丘自主防災のあゆみ

四季が丘地区自主防災連絡協議会
議長 岡村 秀豊

1. はじめに

平成16年5月に立ち上げました四季が丘地区自主防災連絡協議会も、今年で早4年目の活動となりました。

この間、平成17年度からは防災のエキスパートである中田敬司先生にも参加していただき、助言を受けながら四季が丘の防災の基幹となりうる会議のメンバーの防災意識及び知識の向上に努めてまいりました。

また、17年度には廿日市市消防本部による普通救命講習の実施を開始し、19年度末には計約350名の受講者となるように計画しております。



1・2丁目防災訓練

18年度の4月には四季が丘の防災マップの初版を自力で作成し、各戸に配布するに至りました。そしてこの年度には、四季が丘地区では初めての防災訓練が1・2丁目町内会により執り行われました。なお、この防災訓練は、平成19年度では各町内で実施する予定であります。

また、平成19年の10月には廿日市市防災行政無線が整備され活用する運びとなり、11月には四季が丘全地区の皆様を対象にした地域防災講演会を開催いたしました。

このように、四季が丘地区自主防災連絡協議会では、地域防災力の向上に努めてまいりましたが、最終目標は、各町内が独自に防災活動ができる体制にすることです。

まだまだ課題は山積みしていますが、確実に歩んできていることは確かです。

ここで、いままでの歩みを紹介するとともに今後の進んでいく方向を述べたいと思います。

2. あゆみ

四季が丘地区自主防災連絡協議会のメンバーは、コミュニティーの役員、町内会長、各町内から選ばれた2名ずつの自主防災委員が主となり、消防団、民生委員、寿会等の参加・協力を得て構成されています。

平成16年度の第1回自主防災連絡協議会では、「災害とはなにか」というところからスタートしました。そして、第2回目の会議では、廿日市市の担当者を交えて廿日市市の防災の取組状況を聞きましたが、その時に「自分達の地域は自分達で守る」という考えがいかにか大切に実感し、まずは行政に頼らず一から手作りで四季が丘地区の自主防災を成しえようと考え、それが今までの活動の原点となっています。

このようにして四季が丘の自主防災活動はスタートを切りましたが、自主防災活動の計画を立てるにあたって、まずはじめに平成16年12月から平成20年3月までの4年間にわたる**自主防災工程表**を作成し、これに基づいて着実に成果を積み上げて行くことを目標に進めることとしました。

自主防災連絡協議会は年6回の会議を予定し、各会議の前には防災に熱い思いのある役員が集って、会議の議題・内容・進め方を議論・検討し、準備して会議に臨んできました。



一年経過後、自主防災連絡協議会の活動を更に充実させるために、大学で教鞭をとり、防災の専門家、国際救急援助隊のメンバーである中田先生を会議のオブザーバーとして招き、必要に応じて講演をして頂きました。中田先生ご自身も地域の自主防災に関心をもっておられ、お互いに意見交換を重ねて協議会を進めてきました。

しかしながら、自主防災の活動するにあたっては様々な現実的な課題があります。それらを解決するために、メンバーを7つのワーキンググループ（各チーム改善要望事項、緊急連絡網整備、緊急連絡インフラ整備、防災マップ作成、防災倉庫備品整備、普通救急救命講習、防災イベント）に分け、課題の検討を続けました。このことは、

四季が丘地区自主防災連絡協議会のメンバーが受身ではなく、自らが積極的に参画することで課題に取り組み、防災意識を高めることに役立ったと考えています。

ここで、普通救命講習について説明します。

これは廿日市消防署による3時間の講習で、主に心肺蘇生を目的に心臓マッサージと人工呼吸を行い、今話題のAED（自動体外式細動器）による心臓に電気ショックを与えて心臓の働きを戻すことを試みる実技を行います。この講習を受けることにより、災害時のみならず日常に発生する身近な人命救助活動にも役立つ時がくると考えます。この講習会を地区で積極的に取り入れ普及させている四季が丘は、他に比べ先進的であると自負しております。



平成18年4月に配布しました防災マップは、全てが四季が丘のオリジナルです。

これはコミュニティーの副会長である越山さんが、協議会で内容検討したものを編集・校正して原版を作りあげたものです。このマップは四季が丘全体のもですが、このマップをもとに各町内会が各町内独自の防災マップを自主的に作成することを最終目標としております。

大きな目標のひとつでありました町内ごとの防災訓練は、1・2丁目が検討を重ね、全町内に先駆けて平成18年11月に実施しました。それに続いて4丁目が充実した訓練を平成19年2月に開催しました。これにより四季が丘の自主防災は一気にステップアップをいたしました。

このような歩みの中で、今までに他の三地域から四季が丘の自主防災を学びたいと要請があり、その要請に応えることもできました。



煙体験

3. おわりに

このように四季が丘の自主防災活動は進んでまいりましたが、今年度は全ての各町内が防災訓練することを目標としており、その実現のためには各町内での連絡網、マップ、自主防災組織づくりが必要不可欠であります。こうした防災訓練を実施することで、自主防災活動は飛躍的に前進し、今後への継続へと繋がります。そして、来年度以降は四季が丘全体の総合防災訓練の実施を目標に活動する予定です。一方、自主防災活動と通じて住民のコミュニケーションと地域の和が広がっていくことも期待しております。

最後に、「自分達の地域は自分達で守る」をモットーに住民の力を集約して、災害に強い四季が丘を作り上げることを目指して、今後も四季が丘自主防災連絡協議会の活動を進めていきたいと考えています。

益々の皆様のご理解と積極的な自主防災活動の参加を期待しております。

防災の専門家、国際救急救助隊のメンバーでもある中田先生をお招きして、「地域みんなの防災意識を高めるために」防災講演会が開催されました。約110名の方々にご参加され、地域自主防災について演習を交えた有意義なお話をお聞きました。



地域防災講演会実施報告

とき:平成19年11月3日 ところ:四季が丘小学校体育館

◆内容◆

[1] 四季が丘自主防災連絡協議会の活動報告

[2] 講演「災害とは何か、被災の現状とその対策」

講師：東亜大学医療工学部 准教授 中田敬司 先生

🎤講演：

プロジェクターを使って、「災害とは何か、被災の現状とその対策」についてユーモアを交えて中田先生が講演されました。

🎤伝言ゲーム：

これは5人一組のチームを4つ作り、与えられた情報が5人を経る間にいかに内容が変化していくかを体験するゲームです。災害時に必要なのは正確で迅速な情報です。このゲームを通じて正確に情報を伝えることの難しさを実感できたと思います。

🎤救護訓練：

小学校の舞台から人が落下したという想定で、横たわる人形に対して、次々に与えられる現状や情報に基づいて、迅速な処置・行動をとる訓練です。参加者は4人一組で実演に参加しましたが、我々は刻々と変わる状況に戸惑いながら人を救護する難しさを認識しました。

[3] 廿日市市防災行政無線のしくみ・活用

[4] 救命方法の実演など「救命方法の実演（AEDの使用方法）と火災報知器の設置義務」

講師：廿日市市消防署西分署

講演に参加して、最初は難しいイメージだった自主防災・・・。

中田敬司先生の楽しいオシャベリにあっという間に時間が過ぎてしまいました。

もしもの時の為の準備の大切さを勉強しました。

AEDを使用しての実技を教えてくださいました廿日市消防署の皆さん、こちらもまた、もしもの時の為に一度しっかりと勉強する必要があると思いました。

もっと身近に各々が防災について考えてみる良いチャンスになりました。

(広報部 M&k)



ポポロの森野外コンサート

※ポポロは「人びと」を意味するイタリア語です。
 ※毎年行われるポポロコンサートの歴史を振り返ってみました。

♪第一回ポポロの森野外コンサート 同時開催「七夕星空観察会」(※協力：広島天文協会)



開催日：平成14年7月6日(土) 天候：曇 会場：ポポロの森野外公園
 ♪「天空の城ラピュタ」や「千と千尋の神隠し」など、おなじみの曲が管弦楽の調べに乗ってポポロの森に響きました。
 コンサートの後は星空観察会。西の空に輝く宵の明星(金星)はとても大きく見えました。(広報四季が丘 No.23)
 演奏者：(敬称略)
 梶川純司(フルート)、 藤岡里奈(ヴァイオリン)、 吉本千恵(ヴィオラ)、 川内真理子(チェロ)

♪第二回ポポロの森野外コンサート



開催日：平成15年8月23日(土) 天候：曇 会場：ポポロの森野外公園
 演奏者：(敬称略)
 卯の花、 ちゃりんこ、 リコリス、 アロハフラダンスクラブ、 四季中吹奏楽部、 パークシスタ、
 ミタ・モリ、 Mr.えっくす、 木下純、 福田由紀子(読み聞かせ)、 クールランニングス&ウパシクマ

♪第三回ポポロの森野外コンサート



開催日：平成16年9月18日(土) 天候：雨 会場：四季が丘小学校体育館
 ♪あいにくの雨で会場を四季小体育館に変更して実施しました。小雨の中のコンサートも情緒があり、秋の夜に流れる各
 ミュージシャンの奏でる音にうっとり、四季中吹奏楽部の迫力ある演奏にも拍手喝采でした。(広報四季が丘 No.28)
 演奏者：(敬称略)
 四季中吹奏楽部、 3+11、 キューブ、 沖田孝司&沖田千春(ヴィオラ&キーボード)

♪第四回ポポロの森野外コンサート



開催日：平成17年9月23日(祝) 天候：晴 会場：ポポロの森野外公園
 演奏者：(敬称略)
 シルバーキッズ(ハワイアン)、 四季中吹奏楽部、 ゆかいな KOTO の仲間たち(琴)、 リコズトリオ

♪第五回ポポロの森野外コンサート



開催日：平成 18 年 9 月 16 日

天候：雨

会 場：四季が丘小学校体育館

演奏者：(敬称略)

四季中吹奏楽部、 中西隆(ジャズピアノ)、 デュオ旭爪姉妹(ピアノ&ヴァイオリン)、
濱本恵康&矢野吉晴(ピアノ連弾)



♪第六回ポポロの森野外コンサート

開催日：平成 19 年 9 月 15 日

天候：雨

会 場：四季が丘小学校体育館

演奏者：(敬称略)

カブリーズ、 越山裕基&Gekkado(フォークロック)、 四季が丘 ALL STARS(ジャズ&フュージョン)、
岩田英憲&橋本千鳥(パンフルート&キーボード)



ポポコン6

トップバッターは四季中 OB の前田君とその同級生で構成する「カブリーズ」の映画音楽・ポップス演奏。サクソフォーンの優しい音色が響く。続いて、同じく四季が丘出身の越山君をボーカルに、別府で演奏活動している「月桜堂～Gekkado」の野性味溢れるフォークロック。思わずウチワや足でリズムを取り、やがてそれが手拍子にかわり、熱気で会場がヒートアップしていく。次は、構想 6 年、四季が丘直営の住民バンド「四季が丘 All STARS」。'70～'80 年代のジャズ&フュージョンのナンバーをアレンジ演奏。皆さん、細かい技術を入れて演奏されていたのが分かりましたか？最後は、岩田英憲氏と橋本千鳥さんのパンフルートとキーボードの演奏。その素朴で神秘的な音色にロマンを感じ、心が洗われ、心豊かに・・・。

(広報部 N)



「ポポロの森野外コンサートのこと」

ポポロの森野外コンサート実行委員会
実行委員長 井手ヶ原 誠

ポポロの森野外コンサートも昨年 9 月の開催で第六回を迎えました。

今回はパンフルート演奏では日本の第一人者の岩田英憲氏と Hammond オルガンの橋本千鳥さん、四季中の OB 達、そして今回初めて実行委員でもあり音楽をこよなく愛するメンバーがグループを結成し、皆それぞれが素晴らしい演奏を聴かせてくれました。

自分達の地域の身近なところで著名な音楽家や地域に住んでいるお隣さんの演奏を聴くことができ、そして音楽を身近なものに感じることができる・・・、これがこのコンサートの醍醐味であり、意義だと思います。

平成 14 年に公民館が企画した「夏の星空観察会」の企画会議の中で、ポポロ公園の自然環境を活かしたコンサートをやろうとの声が上がったことが始まりでした。公民館の当時の斉藤館長をはじめ、1 丁目の徳原さんが中心となり、公民館企画運営委員会と四季が丘の街づくりに貢献しようとする有志で結成した「ポポロの会」のメンバーが企画立案、「七夕星空観察会と野外ミニコンサート」として第一回が開催されました。その後、第二回からはポポロの会が中心となって実行委員会を設立し、現在まで運営にあたっています。

今までクラシック、フュージョン、ジャズ、フォーク、色んなジャンルからの参加がありました。今後も地域の音楽好きに発表の場を提供し、メジャーを目指す若者の登竜門となるようなコンサートに成長すれば、四季が丘の街の活性化につながるものと思っています。ぜひ、地域の皆様も温かい目で見守ってください。

最後に運営に協力して頂いている公民館、コミュニティづくり協議会の青少年部、実行委員の皆様はこの紙面をお借りしてお礼を申し上げます。

== 四季が丘 20周年に寄せて ==

高齢者の社会貢献

寿会会長 平木 博

わが国は、世界に例を見ない速さで高齢化が進んでおり、21世紀半ばには国民の3人に1人を高齢者が占める超高齢化社会が到来します。

21世紀を豊かで明るく活力に満ちた社会にしていくためには、高齢者が第二の現役世代として、健康で生きがいを持ち、他の世代とともに社会を支えていくことが必要になってきています。



わが国における65歳以上の高齢者のうち、8割以上の高齢者は自立した生活を営んでいるのです。自立している高齢者の大多数は、社会に対して微力ではあっても貢献する能力を持っています。

また、21世紀は競争から協調の社会、平和ですべての人の命が尊重される社会、そして環境にやさしい社会にすることが求められています。そのためには、高齢者の長年培ってきた豊かな経験・知識・技術を生かして取り組んでいる様々な地域文化、生活文化等の伝承活動を披露し世代間との交流を図るとともに、老人クラブ等が日頃取り組んでいる多彩な健康、生きがい活動を紹介、発表し、老人クラブをはじめとする高齢者の組織や活動への理解を高め伝えていくことにより、潤いと活力あふれる社会をめざして活動することが期待されています。

現実これら社会貢献を行っている高齢者が極めて多いのです。

英知にまで高められた能力は、加齢によって低下せず、むしろ生涯発達すると考えられています。社会貢献は、他者の利益になるばかりでなく、それを行っている当人の余命を伸ばし、免疫力をあげ、幸福感を高めていくことが次第に明らかになってきているようです。

共生が、最も大切といわれている21世紀の社会を考える上で、高齢者の持つ力は、将来の発展のための強力な資源であり、誰もが各々の価値観や生き方を持つ中で世代を超えて相互に理解し合い、ふれあいや交流を一層活発に行う、ふれあい、交流する喜びを分かちあえる出会いの場の創造が何よりも大切なことになってくるように考えます。

地域づくりは、夢づくりとして、コミュニティづくり協議会、公民館等と連携し、相応の社会貢献をしていきたいと思えます。



〔寿会発足は平成3年(1990年)4月のこと。同年同月には、四季が丘公民館開館、四季が丘中学校開校、ポポロの森が開園されました。湾岸戦争が勃発し、ソ連邦が崩壊した年でもありました。また翌年4月には四季が丘コミュニティづくり協議会が設立、児童数585名で四季が丘小学校が開校されました。(広報四季が丘 No.33)〕

●四季が丘ペタンク大会

結果報告

優勝インタビュー

▷楽しく、なごやかに、
勝敗にこだわらずプレーしたのが良かった。



[大人の部] 優勝 8丁目チーム
[子どもの部] 優勝 田村3兄弟チーム

平成19年10月14日、四季が丘初めてのペタンク大会が四季小体育館および多目的ホールで開催されました。

ペタンク競技は初めてということで、皆さん最初は的をねらって投げるのが難しいようで、悪戦苦闘、珍プレーもありました。でも、試合を重ねるごとに次第に慣れ、四試合目には各チームとも好プレー続出、会場は大いに盛り上がりました。来年もペタンク競技が開催されれば、今年よりもっとハイレベルな内容になり、もっと盛り上がると思います。(広報部 T)

編集後記

平成19年度の「広報四季が丘」は、我が町「四季が丘」の20年がテーマでした。が、20年はあまりに長く、たかだか年2回発行の広報誌で記述するにはモノがあまりに大き過ぎました。体育祭(町民運動会)、球技大会(ソフトボール、バレーボール)、インディアカ大会、綱引き大会、グラウンドゴルフ大会、といった体育系のを始め、子ども会、ボランティア活動、地域PTA、その他任意団体、四季が丘の噂のお店特集などといったものが未完あるいは未着手のまま終わってしまいました。いつか機会があれば、再び広報記事としてチャレンジしてみたいと思っています。今回の20周年記念号作成にあたり、ご協力いただいた多くの皆様に改めて厚く御礼申し上げます。(広報部員一同)